

## 三木紀人先生のご退官

平田 悦朗

教官の退官の時というのは、誰であれ予定されていることではありますが、いざこうして三木先生のご退官にあたっての一文を書きだそうとすると、あらためて一緒にした11年間のさまざまな思いが頭をかすめます。

三木先生には、ほんとうにお世話になりました。

日本語教育コースの前身である日本言語文化専攻が、お茶の水女子大学のなかに生まれるのに決定的な役割を果たされたのが三木先生でした。多くの難問題を克服して平成3年、日本言語文化専攻が誕生し、水谷信子先生が軌道をしかれたあとを受けて、三木先生は日本言語文化専攻の学科主任をなさり、まだ新設学科で学内の基盤も弱くヨチヨチ歩きをしていた専攻のかじ取りに力を尽くされました。主任は次いで私にかわりましたが、学内事情に疎い私にとって、先生が存在がどれほど心強かったかわかりません。

三木先生の豊かな学殖とあたたかいお人柄は、多くの学生や教官の心に忘れがたい思いを残し、21世紀を迎えたこの年、お茶の水女子大学を去られました。ご専門の研究以外にもご関心の巾は広く深く、それが多くの人材を育て三木ファンを生むもとになっているのだと思います。

時代は巡って、21世紀を迎えました。

三木先生、いっそうご活躍ください。そして、そんな時代もあった、あんな事もあったと、いつかどこかでお目にかかったときにはお話を聞かせてください。